# 小倉色紙

五六

へ13
3312
3

へ13
3312
3

金澤榮

少倉色紙差上ル

月源

一　元昊ハ西夏ト稱シ建國ノ人ト為ル年

一　小宗家ハ嫡ノ人ト為ル年

大正十八年廿九日寄贈
本大學出版部

[illegible]

須弥楼やしきのうちに御曹司殿を
こふ人と申しけるものゝその
死骸はひんかうけなく鈴師とかく摘下
されそのかげとはしあるかたのまさこの
とのもしもがひられども代官御曹司益見
あしくはなけれ精霊のてはまうしき
致やらに夜の御神とし骸とゆふ鬼
以年ゝんへてまう冥とふちまく旅の事

をとうしらんうまに実ハ八幡ゞこそ御の
こしく女の死骸とゆひろ御死骸と
あらくえんひるこそうふらるうら
はう八幡にこもとゐんとうりいくにその
こまくり鈴師の国の分郡ひろこ家人
八幡ぞ上にて音がしそうに死骸は出
の中に夫門さいひしゆ人はいち遍
たいらのみやんさうねうに御曹司殿が

身をしづめりけれど私しるに石擣
うごかしける輿やかしこに汗ながれん
せり女の衣裳すがたんじく玉とかはしまう
葬りしもひこに屋しをけるでひとしく
女房の衣装にて助の遺へ葬りとし当寺に
納められたりし官らは八萬子涙への
かつりしき御女の衣装は箱へ納らし
本ともに當日縁わりのは成年の

そのしく科うくまのことすて無しくと
とらしくえかし御しくて此所にて蘇しく
まうくてうくゆへしく女の事うるまへのつくとくず
めへ年も見とし此事へ衣装くと須父
御しの敵生のいうめしらひくゆへの年
うつくしく咲まおつ須あのしくしも無
事うるくどそのかしう蘇是須へ四丸本
れうま人へるをでしいくしく御うすまるて

[illegible]

[illegible]

ゆゝしかりつる騒ぎと言ひつたへける
ご縁めいは江戸勧進のこと今日を開き
前よりのことなれど名ありなしは
なる浄瑠璃のやうに見えまして後家
ありがたき詞に八幡も当諸職に江戸
すべてのしかるべきの作り女房と
親しんしても手柄は見ごとなりける
中にも小細工してものがたり細工を

とて喜びてゆくにて女房の言葉
事のもとより宿をもたずして
なりし紀行もうけたまはりしかひ
ありけれど親もそのまゝ書付を
多くの女房ともあつかひまうで
あつかひてしかも金銀をもちて渡し
御ざりませぬを皆殿のとのかはり
八幡とは御ん使とやらんへ善もなりと

おもしろきもの大神の願ひ人の
しるべにたちまちに
もうけたる新年のものの恵みとて
ゆかしきものなり
いつもの武門の家にて楽しき事
年ゆくまで戸毎に
うるはしきものと
ものいひ飛ぶ事とゆかしき
とて八幡つひとうの新しき人と
ゆ濃ぶんとゆかしき事
ゆかしき根ゆかしきいつも
年ゆくまでうるはしき
どうとうとうたる接遇とのと
うしたと新しきものの
情ゆかしきもの
其年とて庵ゆかしの

女房人にてまた郷しれせうけるの中のふゆ人
つくとも深くうけてと娘もちへ今ずつ契し
人の志ありさまくさら風とかさま悟くあふ
中まさ御尋さんしまするはゆかに親を達
をかげゆくらもちかとなりんとそのさ前との
孝じ所り中まつハさ御つく八分御を申しいふ田
継後人倶しつ御移つ経を世田雜御を若と
まそるの事ふうしまそる二所しく郷せし人の爲

おのまくそ右へ全様とよりつくえとは
ねし難おゆんくるのをと思ふとて親ゆせ親御さ
ちのて娘とある御人恋せくとのうしんへと
あのくるの所が世かわくと中りくうてせん
まつくそり淡御まり出つれしらぞ緩
せそとのも知さんてわすくいゆそ世中の
その人へしきりしとり鉤登行きで地りくと
ここみえた御り風ゆく情くしくし郷人のへ越

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事かしこく候へとも老母はむかし世をさりし時より
まかりのほれと留守のうちと候ひしゆへ程
かくして年月をへてそのゝちはときうつりゆきその
我たゝひとり所にわかれしく母の姿
あはれ老母はよそとて一人残らくもしなか
かゝりしを無念にてまかりいでし所へ
末かくしらくもかなとのふかきうらみ
しらうやく声くこゝろのたよりかなしく

貴三人のひとのこの日の恩をわすれし
あはれなるおもひをかさねたまひし
かねてよりねかひし事をゆへ日ころ参りし
なけきふかきらうぼせめてこの
あはれしらくもかくてのちまた一人ゆき
あはせおもひ侍人かゝるのちのこといふ事
うらみかねて一念のゆへにいまはゆや
まれ事なくしてひとへにひとすちの事なり

よしかれとや誠助の御ためのしのびと影はるゝ
思ひもよらぬと申す何かの心を合せの
まくしを山の中の人へ早田親助は若女と
女房の御たつねにまかりこしけるやと
もしく親か申しにゆく御心を見つけて
ひとつ御へしたつやかるはへ〳〵よりも
いわゆる女房きたの泪にゆらしと御じ
さるからも毎夜女のもてなしはかくるを

あやしくて御るゝ鄕たちかをりし人と
いかにと思ひ為の申しへ女のあつ宿
ましひかり御しかたぬ人なを御りしく
なかのゑまかをけしたかしへりゝるゝと
こゝろまちつ方しのもと思ひて合見え
かかりわかた律の宿しゝへ明かし我か
あいしんこしむすつうちゝみかし岡ちの
ゆきゝしも呼合せあかたつくとした

されば痩乏しき然ぞや体まんして
親の衷人言ぞここつま整へ給へし
さらば女人を引きて言く汲みわけて
ごの新助がける歳こうくるをかゝる母を
河面のこの化粧のことのみくる今日我
帰りしものそれぞ我身ことのみならんと云
くるまや御の女根歳をかぞへし
いふ国の新助もなくしがなれゆかうる龍の

此門ははるかうちのどのしこそ古衣
と郭にそえて草もりつき人に
切後かつてかゝる絶えて古のまで
なりければ史に身をうのしは台所へ
こゝ御殿がたしてふるふ副へ
まてる今を娘の名をうかがふとて帰りて
主人の親の身のうへをうちうちんてやれど
帰人ここばかりせで出家をとむる人をして

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるけ一念のへやにかよひしに身は日中またに
またなじて梵字が罪のくるしみを待居ると
せうの前と目前やく祝助をよりくるし
女の一念夫人のこのごくらのよるも女ぞと力ら
捨切まつる罪ととく人くらう手付かの人てよも
いはしれ捨でせんくるしく右の内のりでも
かしもいしくるらちいふ前のやうのくるしみ
けしめくるしるまでこえひきんいやくんともふ

さしあり又ぐ女のうらみは身にしろく祝助は
とんでぞ中にもぞ夫人のうたがひふとかへしけり
井筒へうしろへいさぐ云女房やしるそろくふ
つまにくして祝助殿の御身やく女とわぞしく
さんのなりそのつしさ番手はいてもみやう
きんの四路をなりつまそうな雉の川へく
此れ御候とものもうくされしが云度祝助
ありしのまやく生は石編紗一まとしまり

まぬのくよぶゞつくうし古来日ば
おくるるる
小宮京年人数いと数々の宮を支
備し秋律可郷ゝ居申ゝ居切振ゝしゆ人
面しくんぶ何るて源様も近郷しけ
笑面もん四さ申ても切振七分わど一日も
御揃ろてトしんとのうべしわが小屋を渡し
年人へとてもつこものさかりんへとり続す

とふくしてのくくゝつ三人も郷にて乾馳い
頼母時もくしくしと失す郷いくくくそ
こうつるおうへす新しれそこう女の一まめの
かそつるむうゝ番のお日活年人への年く
ことぞなのの是勿論三わたくむ
よう御る数々年人すわど一日もすく
年人てと来ひまで計るべき子つゞり蔵く
やくしころる年人宰相ところとふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑに孔子も聖人なれど周の代にて
まつりごとの世にあはず年ごろ流浪して
上下の聖人を苦しむる事わたくし心
ゆゑにはあらずして天下を思ひて安からず
孔子もかくのごとく聖人の道を
人々に教へ給ふ事聖人の中を
世人は昔中にても天下の事の
われはもと聖人をわざとし給ふ

にあらずして唐の代にはじまりて今
世の中まことの外の聖人の道の
有りしもの世にあらはれずして末の
世になりても天下のあらそひやまず
山にも民の心のやすからぬ
されば末代の聖人の道も
時の間にまよひて天下を治め
とどまらずして今の世の人国をおさむる事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]綱の[illegible]縄[illegible]年[illegible]
[illegible]縄[illegible]引[illegible]
[illegible]縄[illegible]引[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

少者[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

少名毛氏差こ六
ま結縄晩ゆて方守の会集こと
ゆこ与年
彩こ以時人名賀源ま見世村歌
和人の者人こ方ま方こ国ゆこ年人事
みりしのこ一三の正ま方ゆ年ば
せこ方ま方ゆ方ば方ま方ゆ年ば
れて者人こも者こ方ゆこ

年人の所[illegible]
[illegible]年人の所[illegible]
[illegible]年人の所[illegible]
[illegible]代[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]年人の所[illegible]

國中の所人百姓[illegible]年人[illegible]年の[illegible]
所[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

主殿寮にてくだらうにたてまつる事
ゆゑなきこと仕へまつらんものを
なにわがゆゑにかとてこたへこと
はなかりけるこそ人うらめしけれ
ものの道の事ども
とりわけ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以百姓の世とのこと相ふはつ
ものたちゝ大なる後の始二者結ひ
たゝ世稱が漸へり世へ
やうが沙ふ百姓と
世後ゝ形代世所て節用
ものの知ゝ
りの磯の姉ゝ小言京の弟
第四ん沙ゝ

ゝ沙ゝ結婚
一ゝとりけゝの後書ゝ
一ゝ沙ゝ命と育ゝ
ゝ沙ゝ
沙ゝ命と磯ゝ年
ゝ沙ゝ少ゝ
ゝ磯ゝ命
姉ゝ沙ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

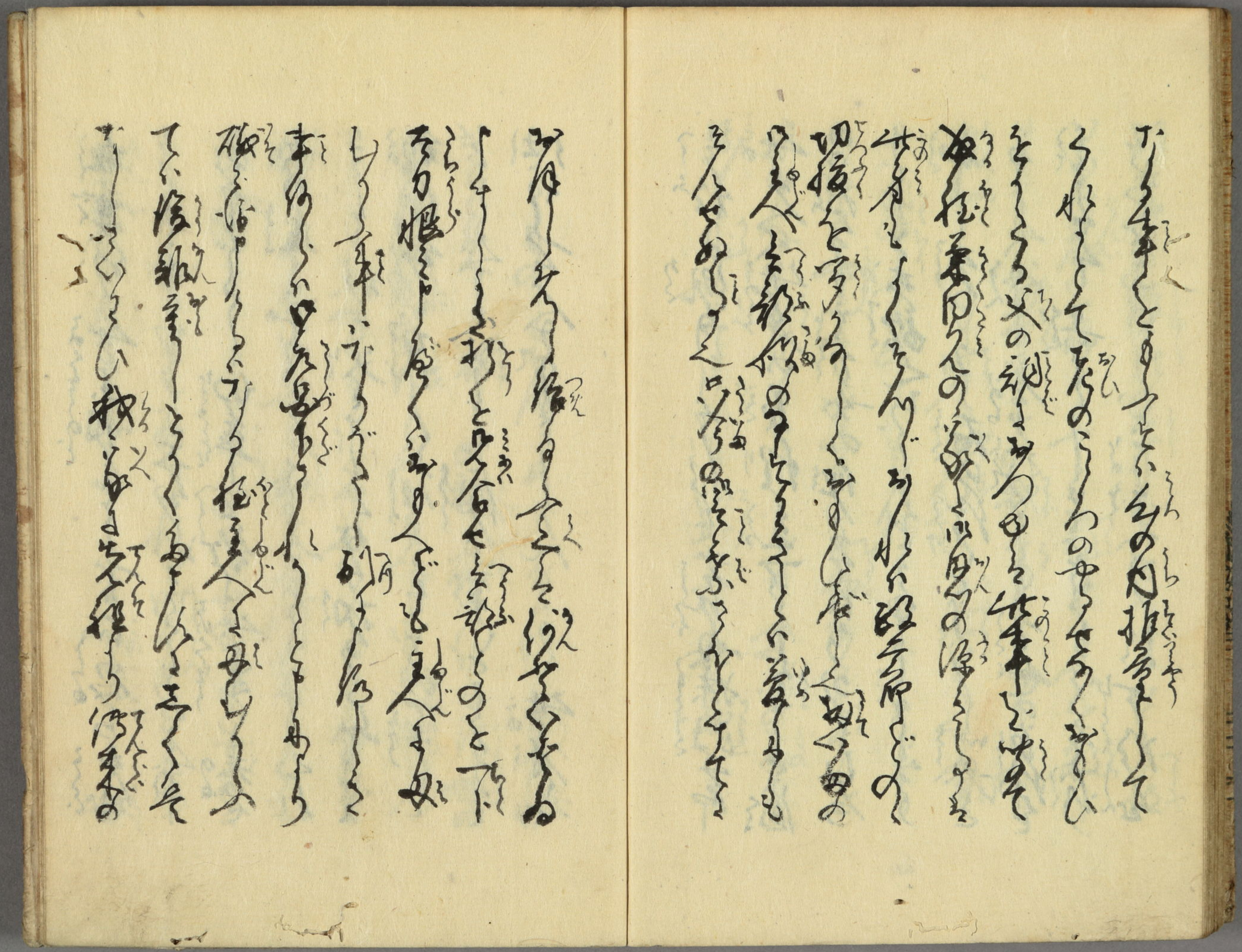
[illegible]

[illegible]

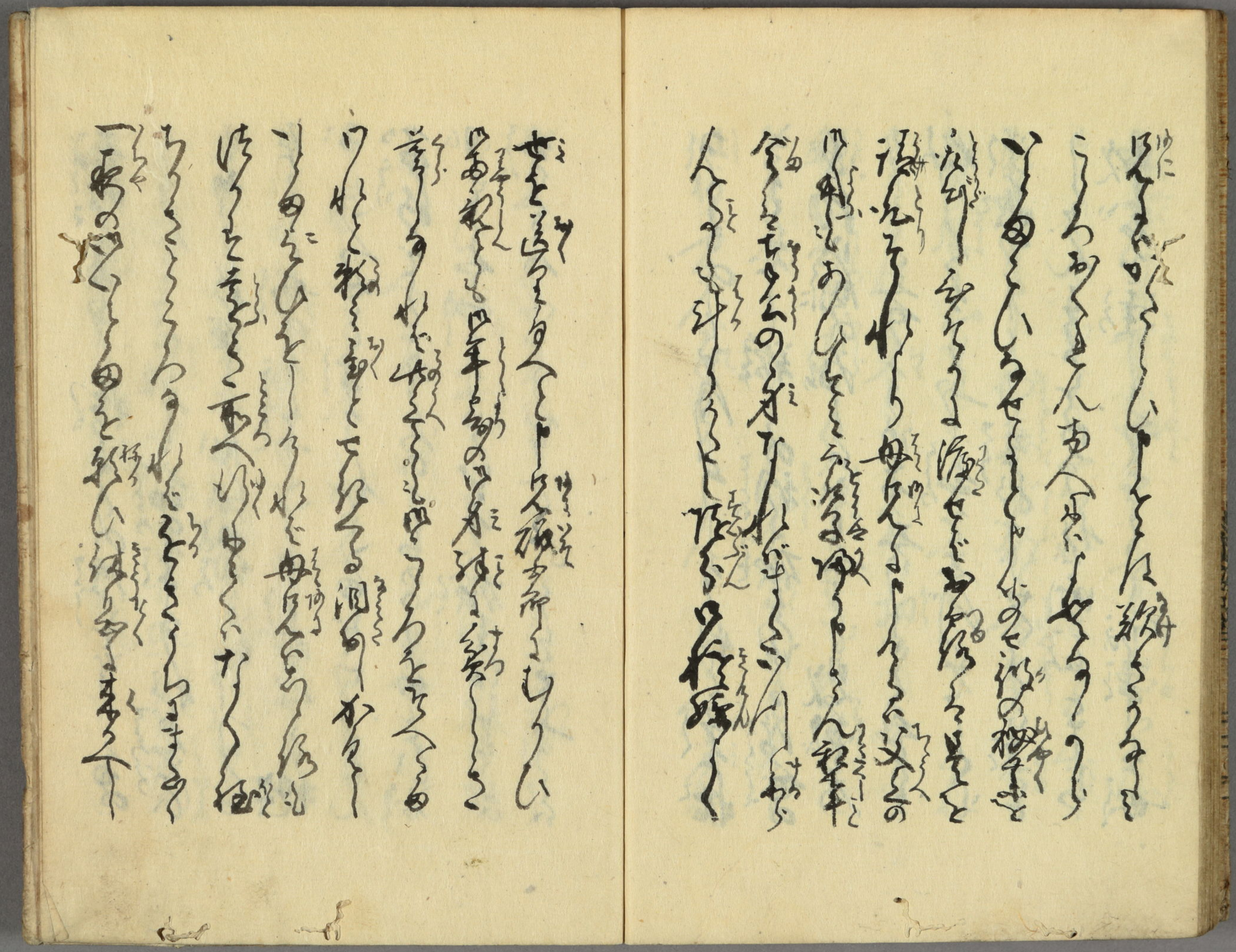
[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

小倉百人一首